

広島大学大学院 文学研究科

第4回「文藝学校」講演会



日時◆10月14日(土)14:00~17:00

会場◆本の学校2階 多目的ホール

共催◆ 広島大学大学院文学研究科「文藝学校」・本の学校郁文塾

後援◆鳥取県教育委員会・米子市教育委員会・米子ユネスコ協会・ITC米子クラブ



本の学校 郁文塾

〒683-0801 米子市新開2-3-10 TEL0859-31-5001 FAX0859-31-9231

E-mail b-schule@imaibooks.co.jp URL <http://www.hon-no-gakkou.com>

待つ—— 第4回文藝学校講演会の開催に寄せて

松本 陽正<広島大学大学院文学研究科教授>

細君と久しぶりに待ち合わせた。

50才を過ぎたというのに、いまだに買物が苦手だ。東京から帰ってくる細君と落ち合い、新しい靴を見立ててもらうことにした。待ち合わせの場所は、駅の「再会の像」前。約束の時間より早く駅に着いたほくは、構内をしばらくぶらついたあと、5分前に「再会の像」前に行った。以前は待ち合わせの場所としてよく使われていたところだが、待っている人はいない。そうか、とほくは思い当たった。世は携帯の時代、待ち合わせ場所を決めておく必要があまりなくなったのだ。

「あと、5分か」と待つ。いいものだ。なつかしい気持ちになれる。

しかし、約束の時間に細君は姿を現さない。5分過ぎる。10分過ぎる。一つのエッセーが脳裏に浮かぶ。こんな内容。

5日前に知り合った女性と待ち合わせた「ほく」は約束の6時に喫茶店に行く。だが、待っても待っても女は来ない。苛立って、9時に喫茶店を出る。焼き鳥屋で自棄酒をあおっていると、突然、喫茶店を間違えていたのではと思い当たる。焼き鳥屋を飛び出し、向かう。間違えていたのだ。女は待っていた。4時間半も。「結婚して40年たち、たまにほくがくもしあのとき携帯電話があつて、すぐ待ち合わせ場所の間違いの連絡がとれ、6時5分ぐらいに会い、4時間待つことがなかったら俺たち結婚しなかったな」と言うと、妻も「たぶんね」と笑う。」(小檜山 博「長く待ったことで」、朝日新聞 2005年11月17日)

そして、思い出す。ほくも待っていたことを。初デートのとき、2時間は待っていたのではなかったか。今の女房を。細君は別の喫茶店で待っていてくれたのではない。ただ、賭けていたようだ。

待つことによって生まれる出会いがあった。

待つこと自体が主題となる文学作品があった。帰ってくるはずの恋人をひたすら待つ主人公。そんな主人公に感情移入し、読者もまたじりじりしながら待った。また、ベケットの『ゴドーを待ちながら』は、いつ来るとも知れぬ「ゴドー」をただただ待ち続ける二人の浮浪者の話だった。

今は「待つこと」が忘れ去られようとしている。携帯で、すぐさま合流である。余談ながら、電話の第一声も「もしもし」から「どこ?」になってしまった。手紙に代わって、メールの時代だ。外国に問い合わせる場合、返事を受け取るまでに手紙なら10日くらいかかるが、メールだと瞬時に返ってくる。出来合いのものを求めれば、料理ができるのを待つ必要などない。のんびりと乗り物を待つこともなくなった。待つことを知らなくなった点に、すぐ切れてしまう若者たちの増加の一因を求めることもできるだろう。

25分待って、細君の携帯に電話をいれた。さすがにもう「賭け」ではなかった。今度は、待ち合わせ場所を勘違いし、デパート前で待っていたのだった。だが、ほくの待ち時間も今度はたったの25分。ほくもかなり毒されてきたようだ。

さて、今回の文藝学校の出し物は、位藤邦生文藝学校校長の続編と文藝学校のスター、ドイツ文学の河原俊雄教授の舞台芸術ものの二本立てである。

この一年、米子の方たちは待っていてくれたのだろうか?

プログラム

第一部 14:00~15:30

◆演題：ヨハン・シュトラウス作曲 オペレッタ『こうもり』

講師：河原 俊雄 <広島大学大学院文学科教授>

休憩 15:30~15:45

第二部 15:45~16:45

◆演題：『源氏物語』の魅力

講師：位藤 邦生 <広島大学大学院文学科教授>



質疑応答 16:45~17:00

講師プロフィール

河原 俊雄(かわはら としお)



文学研究科教授。博士(文学)。1950年東京生まれ。早稲田大学第一文学部卒。早稲田大学大学院文学研究科博士課程後期単位取得退学。広島大学文学部助教授等を経て、現在に至る。ドイツ語文学奨励賞受賞。

著書『殺人者の言葉から始まった文学-G・ビューヒナー研究』(鳥影社)、共著『演劇と映画』(晃陽書房)。論文『ベルリンの演劇(1)~(8)』、『モーツァルト「魔笛」の演出考』など。

位藤 邦生(いとう くにお)



文学研究科教授。博士(文学)。1944年生まれ。広島大学文学部卒業。同大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。広島大学文学部講師、助教授を経て現在に至る。専門は日本中世文学。

主要著書に『伏見宮貞成の文学』(清文堂)、主要編著に『広島大学蔵 古代中世文学貴重資料集 翻刻と目録』(笠間書院)など。